



ごあいさつ

2022年(令和4年)新しい年を迎えました。
日頃から市政へのご理解ご協力に感謝申し上げます。

昨年は爆発的な勢いを見せた新型コロナウイルス感染の第5波が昨年10月から急速に感染者が減少してきました。これは、ワクチン接種の効果と皆様の感染予防の努力の結果だと思われま。本年は、このまま収束に向かって推移してくれることを期待しながら、一方で、昨年末から新しい変異株オミクロンの拡大が懸念される事態となりました。この新しい変異株は、感染力が強いと言われてい。まだまだ気を許す状況ではなく、くれぐれもご自愛いただき、お気をつけてお過ごしくださるようお願い申し上げます。

昨年は、議会でもコロナ対策を中心に市民生活に直結する諸課題について議論がなされました。私も会派を代表して市長をはじめ当局に質疑いたしました。また、多くの皆様からご要望、ご意見を頂き、そうした諸課題をしっかりと受け止め、それぞれにお応えいたしてまいりました。今後もこうした努力を続けてまいります。

今回は、前回の市政報告以降の活動について、ご報告します。

- 令和3年第2回定例市会(令和3年8月31日～10月8日)の本会議で会派を代表して質疑(10月8日)いたしました。また、決算特別委員会第1分科会では、行財政局・市長室(9月8日)及び企画調整局(9月9日)の審査で質疑いたしました。紙面の都合上、一般質問では、Q&A方式で、局別審査では、質問項目について、いずれもその要旨をご報告いたします。また、詳しくは、「神戸市会インターネット録画中継」を御覧いただければ幸いです。



兵庫津ミュージアム・ 初代県庁館(中央卸売市場西側)が 開館致しました。 (令和3年11月3日)

1868年(慶応4年)、兵庫県が誕生するとともに、江戸時代から大坂町奉行所兵庫勤番所として与力や同心が仕事をしていたところに初代県庁館がおかれま。 (初代県知事は、伊藤博文)
兵庫津ミュージアムは、当時の勤番所・県庁を忠実に復元しています。



兵庫県立兵庫津ミュージアム正面入口

明治時代の土木遺産湊川隧道の通り抜け効果 (令和3年11月23日)

経済港湾委員会で質疑
(12月1日)

平野副委員長:

11月23日に実施された兵庫県の湊川隧道の初めての逆行通り抜けに参加された1700名の方が近隣のマルシン市場・東山商店街・ハートフルにお越しになられた。区外、市外の方も多く来られ、大変大きな経済効果があることと、市場商店街のPRにもなることを伝え、是非兵庫県への隧道逆行の引き続きの実施を要望。と合わせて神戸市も県との連携をすべきと質疑しました。



小泉商業流通担当部長

こういうイベントを継続して実施してもらえよう、我々も県の経営商業課の方を通じて働きかけていきたい。その他の地域でもイベントを連携し幅広くたくさんのお客さんに来ていただいて、商店街市場が活性化するように我々も地域と相談し、また支援も行っていきたい。

令和3年第2回定例会 9月議会(8月31日～10月8日)

10月8日の最終日の本会議で自民党会派を代表して一般質問に立ちました。その要旨です。

1.子育てについて

平野達司 産後ケアについて 神戸市の産後ケア事業を妊娠中期、また後期に産後サービスを含めて働きかけを強化すべきではないか。また、産前産後ケアサービスの電子申請を受け付け、周産期を通した一体的な支援に取り組むべきではないか。市長の見解を伺いたい。

久元市長 妊娠中期後期にタイムリーな情報を行うことが重要。12月より実施予定の訪問型の産後ケアについて、産婦の負担軽減のために電子申請で受け付けできるよう現在準備をしている。今後も妊娠中後期の支援の充実も含め、妊娠期から切れ目のない支援に取り組んでいきたいと考えている。

平野達司 子育て支援について 子育て支援施策について、区ごとにどのような子育て支援策が今実施されているのか。どんな支援団体が存在して、どの取組が行われているのか。区や組織の違いにかかわらず、十分に把握することが重要ではないか。これらの情報を整理して一元化または見える化することにより、新たな取組の創出につながるのではないかと考えている。

久元市長 子育て支援につきましては、情報を一元的に把握できるようにするということが、大変重要。できるだけ早くママフレサイト全体のリニューアルを含め、情報発信と、それから必要な情報が必要な子育て世帯にしっかりと届くように、スピード感をもって進めていきたいと考えている。

平野達司 子育て広報について 広報についてはスマートシティポータルサイトを活用して、子育て支援の情報を分かりやすく一覧にした上で、対象年齢と、それからエリア、それぞれそれをプッシュ型広報に努めるべきかと考えるがどうか。

久元市長 子育て世帯に対して、ターゲットを絞って情報を発信する、あるいは質問や意見を吸い上げるという仕組みは、まさにスマートシティポータルサイトであり、来年度以降、民間企業や地域団体のイベント情報も含めて、幅広く掲載をし、子供の年齢や居住エリアなどのログイン情報に基づいて、その位置情報とも連動して表示ができるようにしたり、あるいはそのイベントの時期が近づけば、ポップアップでイベント情報を表示するというプッシュ型の子育て情報を発信できるように、現在、機能の導入の準備を進めている。

今年度は試行版として、興味関心がある事柄や居住区などを選択登録していただく。例えば、子育て関連イベントなど、関連のある情報や居住区などに関連する情報がポータル画面に優先して表示できるような機能を設ける予定にしている。

平野達司 休日での支援事業について 神戸市は積極的に待機児童解消に向けて、保育園の新設設置など取り組むことにより、共働きの世帯も増えてきており、土・日の子育て支援事業が少ないという声が届いている。共働きが増えれば、子育て支援の実施方法も変化させていかなければならない。特に休日に実施をするような形で促進していく必要があるのではないかと考えている。

小原副市長 今後、共働き世帯の増加の社会背景を踏まえ、参加される市民のニーズを把握し、より参加いただきやすい日程を引き続き検討してまいりたい。

平野達司 子育て支援のオンラインの活用について 子育てイベントについて必要な機材を神戸市が貸出して、プロによるノウハウの提供などの仕組みをつくり、またKOBESTUDENTS地域貢献スクラムの大学生に配信のお手伝いをしていただき、人数が制限されている子育て支援をオンライン化することで参加人数も増やすことができ、また一旦参加したいものも、オンラインで見ることにより参加意欲が増すと考える、このような手法を取り入れるべきではないかと考えている。

小原副市長 各主催者がオンライン化する際に、さらに必要なものがあれば、御相談に乗っていきたくと考えている。KOBESTUDENTS地域貢献スクラムによる大学生の支援だが、現在、子育てイベントのオンライン開催の支援という実績はないが、うまくこういった制度も御活用いただきたくと考えている。



会派を代表して一般質問中(10月8日)



子育てサークルにて

神戸市会議員平野達司(たつじ)事務所
神戸市兵庫区東山町2丁目8-61マルシン市場2F
TEL:078-531-8780 FAX:078-531-5301
メールアドレス:th.tatsuji.hirano@gmail.com



平野たつじHP



平野たつじFacebook
神戸市の情報をお伝えいたします。

神戸市会の
本議会、委員会を
インターネットにて
閲覧できます。



神戸市会

平野 達司 転入者への情報提供について
市外から子育て家族が転入したときに一番最初にもらう市民課の神戸のくらしのガイドを神戸に関する情報が乏しい市外の転入者の方々に対して、最も丁寧に情報発信をしていくという姿勢が重要ではないか。



子育てサークル児童館にて



母子健康手帳(サンプル)

今西 副市長 市外からの転入者がどのような情報を求めているのか、また、市として積極的に情報提供すべきことは何か、それぞれの属性に応じた効果的な媒体は何かといったことが十分整理されていなかったのではないかと、できるだけ早く改善をしなければならないと思っている。

平野 達司 小児科の一覧について 改善策の中の1つとして、各区役所のこども家庭支援課で小児科の一覧が配られていない。健康局が持っている小児科に対応している病院一覧で、診療項目として小児科と書いてあるものを是非、公表して、関係すべきではないか。

久元 市長 非常に具体的な御指摘をいただいたので、しっかりと御指摘を踏まえて、できるだけ早く、先ほど私と小原副市長とお答えをした点につきましては、スピード感をもって取り組んでいきたい。

2.大型ごみの再利用(オークションでの売却、海外販売)について

平野 達司 神戸市における大型ごみは、大幅な増加傾向にあり、一部焼却も実施されている。二酸化炭素の排出低減のためにも大型ごみの再利用を検討しなければならない時期に来ていると考えている。
市民が回収前に大型ごみを写真撮影の上、環境局に送付し、神戸市が簡易入札などを行うような仕組みは考えられないか。



海外向け再利用される物品



各種オークション売却前物品

今西 副市長 大型ごみは、平成29年度には約32万個が、令和2年度には約50万個と3年で18万個増加し、約1.6倍という状況で、増加の一途をたどっている。具体例として、椅子、テーブル、衣装ケース、布団、マットレス、自転車、棚、たんすなどで、これだけで約半数を占めている。

本市と、民間事業者と連携して片づけ支援を行うサービスの仕組みを構築した。このサービスは、片づけごみのうち、リユースできるものについてはリユースに回し、再利用できないものは廃棄物として適切に処分するとともに、料金体系など安心して利用できるサービスを提供しようとするものである。これまで試行的に実施をしてきているたんす、テーブル、食器棚などの家具類や、鍋、皿などの買取り、引取りを行っていただいた後、有償での販売を行っている。まだ試行ということなので、令和3年度の上半期では33件の利用にとどまっている状況である。最新のICT技術を活用した民間のノウハウについても、導入可能なものについては積極的に取り入れていきたい。

平野 達司 浜松市がLINEで画像を送信して、AIがごみの種別を判断する回収方法の実証実験をしている。神戸市内には全国的に大規模な不用品買取りのオークション会場が2つあり、南は鹿児島から、東は関東から多くの方々が参加。オークション会場は国内流通だけではなく、実は神戸に港があることから、海外での不用品販売が実現できている。大型ごみの写真を撮って、簡易入札ということができれば、二酸化炭素の削減、大型ごみの再利用、大型ごみの軽減にもつなげられると思うが、ぜひ積極的に推進していただきたい。

最後に、海外では、食器がかなり価値があり、再利用可能と考えているので、市民に負担をかけずに、一部の地域でモデル的に食器は資源ごみとして回収できないか。

今西 副市長 今年度、民間事業者と連携して、プラスチックなどの資源物を地域における拠点で回収するモデル事業の実施を予定している。その中で、食器についても、回収対象として集め、リユース市を開催することを検討している。そういったモデル事業を実施する中で、御指摘のあった回収した食器の海外における再利用の可能性とか、民間の不用品回収業者との連携した回収といったものも研究させていただきたい。

兵庫運河のアマモに注目が集まっています。環境への取り組みに高い評価

近年、アマモ場は、減少しており、再度育成させるのにそれぞれの地域で苦勞されています。そうしたことから、2008年に第一回、全国アマモサミットが開催され、以後毎年開催されています。このように貴重なアマモが兵庫運河の人口護岸に育ってまいりました。

兵庫運河の和田岬線旋回橋の横に神戸市が整備したはまっ子キラキラビーチがあります。ここでは、浜山小学校の児童生徒が兵庫運河の自然を残すプロジェクトの一環で環境学習としてあさりの育成など勉強していますが、この砂浜が、徐々に運河側に流れ込み、そして運河を通る船により、反対側(北側)の人口護岸に数センチ程度の砂が重なり、そこにアマモが育ってきたのです。

アマモは、海藻ではなく、イネ科の海草で海の砂地に生えます。水を浄化する力が強く、二酸化炭素を吸い取り酸素を排出いたします。アマモは「海のゆりかご」と呼ばれ、海の生き物たちの住みかや、産卵場所になり、多くの魚や生き物が集まってきました。

また、浜山小学校北側には、国土交通省が実証実験として、阪神高速湾岸線の橋脚設置予定箇所になる防波堤の瓦礫の処理で残った海水に馴染んだ土砂を利用して、干潟を作りました。この干潟には、貝類が生息し、それに魚が集まり、今や、エイやクロダイまで来ております。そして、小魚を狙って海鳥もこの干潟にきております。これが今の兵庫運河です。海洋環境教育の活動に注目してください。



子どもたちのアマモの移植



海洋環境について学習する子供たち



兵庫運河の自然を残すプロジェクトの案内版

令和3年第2回定例市会(8月3日~10月8日)が開かれました。 決算特別委員会が設置され、私は、第1分科会で次の2局の審査で発言いたしました。

行財政局・市長室審査(9月8日)への
質疑に立ちました。

(質問項目は、5項目になります)

1. 財政健全化と投資のバランスについて

コロナの取束も見通せない状況の中、必要な事業は実施できるのか。

投資を進めると健全化指標は増加し、投資を行わなければ、まちの魅力を高めることができないので安定した所得や財産の維持、拡大につながらない。健全化指標を小さくさせ続けることは必ずしもいいことではないと考えるがいかがか。

2. 区役所業務の民間委託について

今年4月からの区役所電話交換業務の委託に関して、不満の声を多く聞いている。問題に対してどのように認識して、どのような対策と改善を図っていくのか。

兵庫区役所、北神区役所の市民課、保険年金医療課の業務委託について今年の10月からスタートすると聞いている。

この窓口業務は市民の最前線なので、電話交換業務のような問題が生じないように、十分な準備を行い、委託によって市民満足度が上がるように進めていただきたいかがか。

3. デジタル人材の活用について

AIを活用できる人材の獲得が各自治体も激しくなっている中、神戸市はどのような人材獲得の取組をしているのか。

4. 広報について

市長会見の資料で直感的に分かりやすい視覚的なイメージを入れることにより文字だけではなく見てる方の頭に入ってくるのでそうした対応が必要ではないか。

5. 不当要求行為について

不当要求行為から職員を守る取組について法務監察専門官の昨年の相談件数が114件、この行為が重なっていけば、組織や職員の方がそれぞれ萎縮して、柔軟な行政運営ができなくなってしまうことを危惧している。この不当要求の判断基準については慎重に運用して、市民の要求に対し公平性をもって対応すべきではないか。



企画調整局審査(9月9日)への
質疑に立ちました。

(質問項目は、3項目になります。)

1. デジタル人材の育成について

神戸のスマート自治体の中核を担うデジタル人材の内部育成について、どのような取り組みを実施しているのか。

今年度AI人材に繋がるデジタルエンジニア人材の取り組みを開始したけども、どのように貢献を目指しているのか。

2. スマートシティの推進について

スマートシティの市民参画について、市民意見の反映を含めた市民参画推進の状況はどうか、スマートシティポータルにおけるサービス、また、地元企業を含めた民間企業の協力体制を含め、スマートシティの運営体制についてはどうか。

さらに、スマートシティのその自立自走については将来的には官民デジタルインフラとして、当然ながら公共も一定関与しつつ、自ら資金を獲得して自立した運営を果たしていかなければならない。自立自走に向けた見通した方向性についてどうか。など神戸市市内のデータ連携基盤のスマートシティの活用について、かなり専門的な内容について突っ込んだ議論をいたしました。

3. 兵庫運河の活性化と兵庫津の歴史遺産の整備PRについて

兵庫運河を舞台に国土交通省が干潟実験実証実験に取り組んでいる。また、人工護岸にアマモが育成し水質の環境に向けても大変期待されている。アサリの育成実験だとか環境問題への取り組み、また真珠貝プロジェクトなども含めて、地域挙げて取り組んでいるので広く市民に伝えていただきたい。

以上3項目のうち、デジタル人材とスマートシティについてはかなり専門的な内容で突っ込んだ議論になりました。また兵庫運河の各種実証実験については、SDGs(持続可能な開発目標)の趣旨にそった将来のある取り組みです。